

「山鹿の少子化対策について」

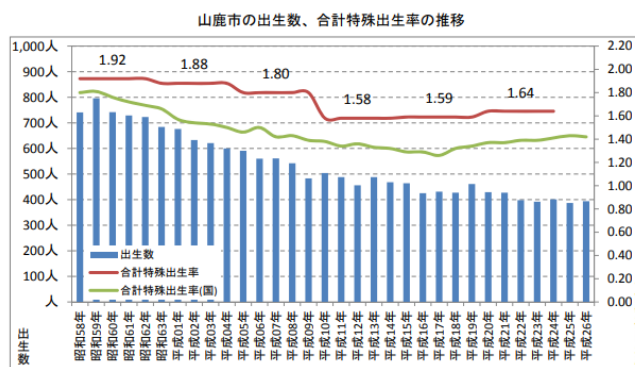
鹿本高校

要旨

少子化対策の問題について私達が住んでいる山鹿市では年々深刻化している問題なので解決できるように取り組みを考えた。

研究背景

人口は、高度経済成長期以降、1975年(昭和50年)まで減少傾向にありましたが、1980年代から増加していった。しかし、バブル経済崩壊後の1990年代に入ってから再び減少し始め、2005年(平成17年)の合併時には、6万人を割り込んだ。その後、2014年(平成26年)には、53,039人まで減少し、今後さらに減少していくものと見込まれている。合計特殊出生率は、全国平均を上回っているものの、出生数は減少している。1993年(平成5年)以降は死亡数が出生数を上回る自然減の状態である。社会移動は、1985年(昭和60年)以降、長期にわたり転出超過の状態にある。地域別では、熊本都市圏・福岡県への転出が顕著に見られる。



出典：人口動態統計(厚生労働省)、熊本県推計人口調査

研究方法

本やインターネットで調べる

結果・考察

現在、山鹿市では高齢化とともに少子化が進行してきている。山鹿市の合計特殊出生率は、1983年以降、希望出生率である1.8を上回っていたが、2000年代になると1.58まで低下した。以後はゆるやかに上昇しており、全国平均を上回って推移している。一方、出生数は、1984年の796人をピークに長期的に減少傾向となっている。調査によれば、女性の結婚年齢が21歳から24歳の夫婦では平均2.20人であるのに対して、25歳から28歳では1.85人、29歳以上では1.64人と低下傾向にある。また、2000年から2013年にかけて、男女の平均初婚年齢、第1子出生時の

引用文献・参考文献

山鹿市

<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>

熊本市

<https://www.city.kumamoto.jp/>

母の平均年齢は大きく上昇し、晩婚化・晩産化が進行しているとされている。山鹿市では1997年から2007年頃の合計特殊出生率が落ち込んでいるが、その理由のひとつとして、晩婚化・晩産化が考えられている。

今後の展望

熊本市を含む熊本県内の景気の見通しは、(公財)地方経済総合研究所によると、「平成28年熊本地震」の前と比べて高い水準を維持しているが、これまで県内経済を支えていた復旧・復興関連の需要や半導体関連の需要は減少し、2019年度以降、徐々に低下すると考えられている。自然増減については、合計特殊出生率はゆるやかに上昇傾向にあり、かつ全国平均を上回っているが、人口置換水準(人口規模が長期的に維持される水準)には至っていない。社会増減については、移住定住による市外からの人口流入はあるものの、主に若年層の進学・就職等による人口流出。

- ①社会増減は、2015年を基準に減少幅を2030年までに半減し、それ以降は維持する。
- ②合計特殊出生率は、2040年までに1.8に上昇し、その後は1.8を維持する。
- ③山鹿市の経済指標(GDP)が、2021年以降▲1%成長で安定的に推移する。この結果、2040年の本市の人口は約41,000人、2060年の人口は約35,000人となり、社人研推計の約26,000人に対して、約9,000人の減少が抑制されることになる。

そのことから私達9班は少子化の原因である晩婚化・晩産化を原因として考え、出会い、結婚のサポート体制を充実させることとして結婚についての社会全体での支援をできるようにする。例えば、結婚 妊娠 出産の支援をする。わたしは安心して子育てができるように子供・子育て支援施設や、保育園や幼稚園、公園などを増やすなどの子育て環境の充実を応援することができると思った。保育サービスや養育支援訪問事業などをもっと活発にしてほしいと思った。金銭的にも余裕を持った子育てができるように無料サービス、その仕事をする人たちにもそれにあった報酬を得られるようになるといいなと思った。